

## 【陽気なお盆～メキシコの「死者の日」～】

日本の夏の伝統的な行事というとお盆がありますね。スーパーなどで、お盆用品が並んでいるのを見かけると、今年もお盆の季節が来たなあとしみじみ感じます。

さて、日本のお盆のような風習は他の国にもあるのでしょうか？お盆に相当する行事のない国もありますが、中国には清明節、タイにはローイクラトン祭、といったようにお盆に似た行事やお祭りがある国もあります。今回はその中でも私たちが持っている「お盆」のイメージを覆す、極彩色で陽気なメキシコ版お盆「死者の日」について紹介します。

メキシコでは10月31日から11月2日までが「死者の日(Día de los muertos)」であるとされ、この期間に故人の魂がこの世に戻ってくると信じられています。死者の日が近くなると、メキシコの人たちは家の中に祭壇を飾ったり、先祖のお墓を飾ったりします。特徴的なのはその飾りで、太陽の国メキシコらしくとてもカラフルです。花は太陽の象徴でもあるオレンジ色のマリーゴールド、色とりどりの切り紙の飾りに、極めつけは楽しそうに笑うガイコツの人形飾り。ガイコツと聞くとなんだかおどろおどろしいイメージですが、メキシコのガイコツ人形(calavera)は超ラテン系！様々な衣装に身を包み、歌ったり踊ったり、結婚式を挙げたり・・・と本当に楽しそうです。ガイコツは死を象徴するとともに「生まれかわり＝新しい生」を象徴するものでもあるため、決して縁起の悪いものではないのです。そして、現世を生きる人たちは、せっかく天国にいる家族や友人の魂が帰ってくるのだから、自分たちもご馳走を食べたり、歌ったり踊ったり、目一杯楽しむことで彼らの魂をもてなそうとします。生命力に満ち溢れたお盆、メキシコらしいですね。

もともとメキシコでは約3,000年前から、祖先のガイコツを身近に飾る習慣がありました。ご馳走をお供えし、花を敷き詰めたお墓で死者の魂と再会し、同時に大地に豊穡の祈りを捧げていたそうです。そうした先住民時代の習慣と、スペイン侵略後のキリスト教(カトリック)普及とともに混合されたものが現代の「死者の日」です。

この「死者の日」は、2003年には「死者に捧げる先住民の祭礼行事」としてユネスコの無形文化遺産に登録されています。1年を通しての行事の中でも、最もメキシコらしい行事であり、世界中からこのお祭り(fiesta)を体験しようと多くの観光客がメキシコを訪れます。

最近ではエスニック雑貨店などでカラベラ人形を置いている所もありますので、買い物に出かけたときには探してみてください。意外とかわいいですよ。

